

# 星の王子さま



## 刊行80周年

### The Little Prince

A. D. Saint-Exupéry / 著  
London William Heinemann / 1945  
ISBN: 0-434-96160-4

原著の初版本です。原文を読むのは少し難しいかもしれませんが、貴重な資料のひとつです。

### 星の王子さま

サン=テグジュペリ / 作、内藤濯 / 訳  
岩波書店、1979(2000)  
ISBN: 4-00-115676-8

日本で初めて刊行され、以来長く読み続けられてきた翻訳版。2005年以前に読んだことがある方はこの版がいちばんなじみ深いのかもしれません。

### 人間の大地

サン=テグジュペリ / 著、渋谷豊 / 訳  
光文社古典新訳文庫、2015  
ISBN: 978-4-334-75314-6

上述した著者のエッセイ。短編連作小説のような読み応えがあります。

「星の王子さまSA」が寄居にありましたが2021年3月末をもって終了。

「星の王子さまミュージアム」も箱根にありましたが、これも2023年3月末をもって終了。相次いで所縁のある建物が消えていきますが

問題ありません。だって、一番大切なものは目に見えないのですから。

1943年4月6日にアメリカでフランス語版・英語版が刊行され、没後60年で著作権が切れた2005年には新訳版がたくさん出版されるほど世界中で愛されてきた星の王子さま。これまで200以上の国と言語で出版されています。

著者のアントワヌ・ド・サン=テグジュペリ（1900～1944）は飛行士としても有名で、自身の飛行士としての経験を星の王子さまにも記しています。（著：人間の大地）筆致は軽くて、一見子ども向けのようにですが、この本の前書きにも「大人はみんな、初めは子どもだったのです（しかし、そのことを覚えている大人はほとんどいません）。」とあるように、子どもの心を忘れてしまった大人のために書かれています。奥深いストーリーで考えさせられる内容に、読むたびに童心を思い出させてくれます。何度読んでも新しい発見がある星の王子さまを探究する本を紹介します。

### 星の王子さま百科図鑑

クリストフ・キリアン / 著、三野博司 / 訳  
終風舎、2018  
ISBN: 978-4-86498-058-6

作者のプロフィールからストーリー・キャラクター・世界への反響まで、ありとあらゆる『星の王子さま』を網羅。百科図鑑の名に恥じない、これを読めば”petit prince” 博士になれる一冊。

### 第11回

## 書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へ  
つなげていく企画

第11回の文字は前回の書名から  
「い」です。

### 『いい加減な日本語』

（堤良一 / 著 凡人社 2022.1）

フィラー、指示詞を主なテーマに、日本語のおもしろさを伝える一冊です。特に言葉としての意味を持たない「えーっと」「あー」などのフィラーには、実は重要な役割があること、また日本語は実に曖昧で、ニュアンスに富んでおり、高度な語彙や用法であることに気づかされます。



# ちりっと



## Chiratto Vol.40



2023年4月-2023年5月号

特集1

## 星の王子さま

### 刊行80周年

特集2

## 東京ディズニーリゾート

### 開業40周年

連載

## 書名でしりとり

お知らせ

## 西東京市図書館からのお知らせ FM西東京で紹介した本



# 東京ディズニーリゾート 開業40周年

1983年4月15日、東京ディズニーランドが開園しました。14万坪という広大な敷地に総工費1500億円(当時)をかけた巨大プロジェクトは、日本の既存の遊園地や観光業界に多大な影響を与え、この年は「レジャー元年」ともよばれています。あれから40年。夢の国の軌跡をたどる本を紹介します。

“東京ディズニーランドという疑似アメリカ世界が東京湾に出現したとき、日本の庶民の大半は、それを文化的脅威だとは感じなかった。それはむしろ、日本の経済力の象徴といったプラスのイメージで評価された”

“日本人はいつの日か、東京ディズニーランドを消費しつつ、豊かさや快適さの象徴をどこかほかに求めるかもしれない。アメリカにおいては聖地であるディズニーランドも、日本においては精神性をともなわない巨大な娯楽・消費空間だからである”

『ディズニーランドという聖地(岩波新書 新赤版 132)』  
能登路雅子／著、岩波書店、1990.7  
ISBN:4-00-430132-7

“もちろん、高橋は約束など守るつもりはなかった。いまさらそのような保留条件をつけて、ディズニー側を怒らせて破談にすることなどできなかった”  
“年間1600万人以上という驚異的な数字を支えているのは、近県にすむ圧倒的な数のリピーター…1800億円という負債を追って始まったオリエンタルランド社の経営は、四年目にして黒字転換し、人々を驚嘆させた”

『ディズニーランド物語-LA-フロリダ-東京-パリ-』  
有馬哲夫／著、日本経済新聞社、2001.7  
ISBN:4-532-19073-8

“本書で紹介するのは、構想段階の線がラフから原画、コンセプトアート、完成形のファンマップまで、歴史的にも貴重なディズニーにとっておきの地図の数々”

『世界のディズニーパーク絵地図  
-夢の国をつくるための地図と原画-』  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社／監修、うさぎ出版  
2018.5、ISBN:978-4-7683-0960-5

“誰もいなくなった東京ディズニーランドやディズニーシーで、キャラクターたちは一体なにをしているのだろうか?東京ディズニーリゾート25周年のフィナーレを飾る一冊”

『MAGIC-篠山紀信at東京ディズニーリゾート-』  
篠山紀信／撮影、講談社、2009.2  
ISBN:978-4-06-339758-1

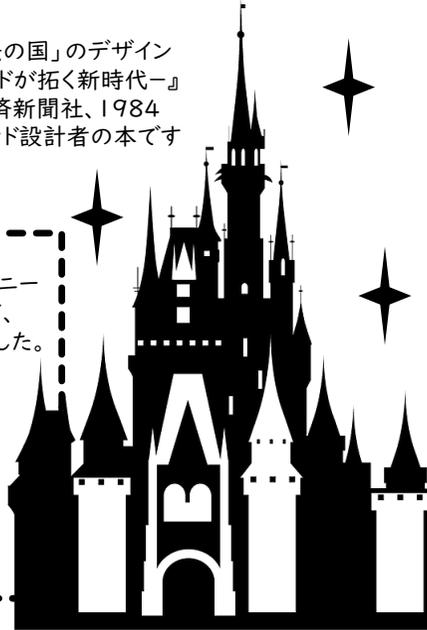
“ディズニーランドはテーマパークではなく、「創造された街」である”

「魔法の国」のデザイン  
-東京ディズニーランドが拓く新時代-』  
長谷川芳郎、日本経済新聞社、1984  
★東京ディズニーランド設計者の本です

\*\*\*  
今回は東京ディズニーリゾートに限定して、書籍をご紹介します。

ディズニーの本はこのほかにも多く所蔵しています。

この機会にぜひ色々手に取ってみてください。



## 西東京市図書館からのお知らせ

【レファレンス展示】テーマ:植物  
期間:令和5年4月4日～令和5年4月30日  
実施館:全館

現在図書館では、「植物」をテーマにした展示を行っています。いま話題の牧野富太郎の植物辞典や、葉っぱを比べて見られる本、花の見分け方や育て方の本など…様々な視点で集めた「植物」の本がありますので、ぜひ本を手にとって、草花の芽吹きや新緑の季節を楽しんでください。

## F M西東京で紹介した本

『江戸時代京都名所事典  
-古地図で辿る都の今昔-』  
(島村幸忠／著、笠間書院編集部／編、  
笠間書院/2023.2)

江戸時代から既に人気の観光スポットだった京都。当時の代表的なガイドブックである「都名所図会」と「拾遺都名所図会」の内容を今のことばで紹介した本です。カラー版の古地図が載っており、京都の様々な名所やその歴史、見どころとともに紹介されていて、読み物としても楽しめます。

## 『妄想の世界史-10の奇想天外な話-』

(ビクトリア・シェパード／著、

日経ナショナルジオグラフィック、2023.2)  
人間の歴史は、百花繚乱の妄想に満ちている!当事者には切実なことでも他者から見れば奇妙で病的にさえ思ってしまうような「妄想」。史実からの10のケースを取り上げ、文化・社会・宗教・精神医学の観点から「妄想」を読み解いていきます。ガラス妄想、誇大妄想、恋愛妄想...様々な「妄想」の世界から、日常や現実世界の「戦略」に繋がるヒントがあるかもしれません。

発行:西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>